

人物情報を探す

2016年 3月作成
2024年 4月更新

■本で探す

人物情報を探すための図書資料には、次の3種類があります。

一次資料：本人の著作や、その人物について著作者が直接書いている記事、論文や図書など。また史料類。

図書館で検索するなら→「著者」や「タイトル」欄に人物名を入力

二次資料：参考図書。辞事典、図書目録。数多くの一次情報の内容をまとめて解説したり、どの一次情報にどのような情報が載っているかをまとめたりしている。

 日比谷図書文化館所蔵資料の例

『日本の実業家』（日外アソシエーツ）

『幕末明治人物研究文献目録』（日外アソシエーツ）

三次資料：どの二次資料（辞事典）にどんな見出しで掲載されているかを探すための図書。辞書の辞書ともいわれる。

 日比谷図書文化館所蔵資料の例

『人をしらべるレファレンスブック』（日外アソシエーツ）

『西洋人物レファレンス事典』（日外アソシエーツ）

図書館での検索項目「件名」について

タイトルや著者だけでなく、「件名」という項目も便利です。

例1：「件名」に「渋沢栄一」と入力し検索すると、タイトルや著者名に「渋沢栄一」と入力して検索してもヒットしない『常設展示図録渋沢史料館』という資料が見つかります

例2：件名「姓氏」で検索すると『全国名字大辞典』『苗字辞典』など、姓（名字）について調べるための本が見つかります。

■ データベースで探す

2Fカウンターにてお申し込みください



Japan Knowledge Lib(ジャパンナレッジリブ)

約50種類の辞事典、叢書、雑誌にある人物情報を横断検索できます。



東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー

『役員四季報』掲載の上場会社の役員（取締役、監査役、委員会設置会社の執行役）情報を探すことができます。



官報情報サービス

各省庁の人事異動、叙位・春、秋の叙勲及び褒章等、さまざまな人物情報が掲載されています。氏名をキーワードにして検索してください。



各新聞社提供のデータベース

それぞれの新聞記事の中に出てくる人物情報を検索できるほか、下記のようなコンテンツもあります。

●朝日新聞クロスサーチ（朝日新聞社）『人物データベース』

各界の有識者を中心に経済人、政治家、研究者、文化人、スポーツ選手らの経歴や連絡先などの情報を収録しています。

●ヨミダス（読売新聞社）『現代人名録』

現代の国内外のキーパーソン（一部故人を含む）の人物データ。当該人物の詳細データ画面から、その人物に関する記事をワンクリックで検索できます。

●日経テレコン（日経新聞社）『人事検索』

全国の企業経営者や役員から、議員や公官庁職員、各界で活躍する著名人にいたるまで、幅広い人事情報を収録しています。

■インターネットで探す

国立国会図書館サーチ（国会図書館）

調べたい人の氏名を入力して検索してください。国立国会図書館をはじめ、国内各機関から収集した1.3億件以上の文献情報等を検索できます。

国会図書館でデジタル化している資料の全文検索もできるので、人名事典や伝記などには載っていないような人の人物情報も探すことができます。

日本人名情報索引（人文分野）データベース

（国会図書館）

国立国会図書館所蔵の和図書・和雑誌から、日本人の人名情報（略歴等）を収録する人名辞典及びそれに類する資料を選び、書誌や収録内容のキーワードからの検索を可能としたデータベースです。

近現代日本政治関係人物文献目録（国会図書館）

国立国会図書館所蔵の和図書から、明治期以降、政治の分野で活躍した日本人に関する文献を選択し、人物名、本のタイトルなどから関連文献を探せるようにしたデータベースです。

東京大学史料編纂所データベース（東京大学史料編纂所）

幕末から明治時代にかけて撮影された日本あるいは日本人に関する古写真をおさめた古写真データベース、肖像図版の所在情報を提供する肖像情報データベースなどがあります。

研究者検索researchmap（科学技術振興機構）

日本人または日本で研究する、30万人を超える研究者の情報を、氏名や所属、論文などの業績から検索できます。

■さいごに

名前の読み方のような基本的なことでも、1つのサイトあるいは1冊の本からの情報のみで判断するのは避けましょう。

① 信頼できる情報源にあたる

本であれば、著作者や出版者、ホームページであれば、その提供者から判断してください。

② 複数の資料で検証する

辞事典であっても著作者の見解で書かれていることがあるので、できるだけ多くの資料にあたってください。

③ 典拠となる資料にあたる

辞事典の記載だけで判断せず、できるだけ、その根拠や典拠となっている資料を直接見てください。

Wikipedia（ウィキペディア）について

ネット上の百科事典であるWikipediaは、日々更新が行われており、かなり詳細で参考になる項目も多いです。

しかし、誰もが匿名で更新できるため、検索時の記載内容が必ずしも正確とは言えません。

調査のヒントやてがかりをつかむためにはとても便利ですが、**決して鵜呑みにせず、必ず他の情報源にもあたってください。**